

おいしさと健康



2017年3月

グリコの歴史

2017年 グリコは **95** 周年



■ グリコ誕生の秘密は、偶然見かけたカキの煮汁

江崎グリコの創業者、江崎利一。佐賀で薬種業を営んでいた1919（大正8）年、川の土手を通ると、そこで漁師たちがカキの干し身をつくっていました。釜からゆで上ったカキを取り出すたびに、大量の煮汁がこぼれる光景を目にし、カキにはグリコーゲンが豊富に含まれているという研究発表を思い出しました。

さっそく利一は漁師に煮汁を分けてもらい大学病院に分析を依頼。その結果、グリコーゲンが40～42%も含有していることに加え、カルシウムや銅なども含まれていることがわかりました。この利一とグリコーゲンの出会いが、グリコの誕生、江崎グリコ創立のはじまりになったのです。



江崎利一（1951年）

■ グリコーゲンを子どもたちの健康のために

カキのエキスにはグリコーゲンを豊富に含むことがわかった翌年の1920（大正9）年、利一は医師の許可を得て、病弱だった長男にカキのエキスを与えました。少しずつ健康になる長男を見て、利一は「グリコーゲンを、広く一般に活用してもらうためにどうしたらよいか」と考えました。「予防こそ治療に勝る」と考えた利一は子どもがよろこぶキャラメルにグリ



利一が試作品づくりに使用した鍋

コーゲンをを用いることを決めました。キャラメルづくりの経験がないため、試行錯誤を重ねましたが、1921（大正10）年に「栄養菓子」を誕生させます。名前はグリコーゲンから「グリコ」と名づけました。

■ スポーツから生まれたマークと一粒300メートル

ほかにはないものをつくりたい。それが利一の目指す「グリコ」でした。キャラメルのかたちには真心を表す「ハート型」にこだわり、1921（大正10）年、ハート型の「グリコ」の生産に成功します。パッケージは人目を引く「赤」を採用。そして利一は、ゴールインマークと「一粒300メートル」のフレーズを生み出します。

ある日、神社でかけっこをしていた子どもが、両手を大きく上げてゴールインする姿を見たとき、利一は「スポーツこそ健康への近道、子どもの遊びの本能もスポーツに繋がっている。それらの象徴がゴールインの姿だ」とひらめきました。これがゴールインマーク誕生の瞬間でした。一粒の効用をうたった「一粒300メートル」のキャッチフレーズを使うために、300メートル走るために必要なカロリーを算出し、商品設計をおこないました。



発売当初のグリコ（1922年）

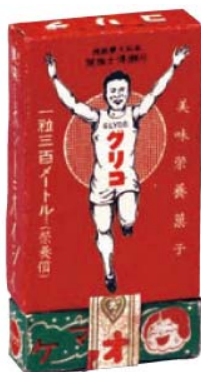
■ 大阪三越を起点に、関西に広がった「グリコ」

1921（大正10）年、「グリコ」販売の準備を終えた利一は家族とともに佐賀から大阪に移り、合名会社江崎商店を設立。「グリコ」の本格的な販売に際して利一は、歴史も伝統もある「大阪三越」に向かいました。そして利一は断られても、断られても足を運び、その熱意が通じ販売が実現します。1922（大正11）年、三越で「グリコ」の販売がはじまると、一流店で販売していることが信頼を生み出し、高島屋や大丸をはじめ多くの販売店での取り扱われるように。こうして「グリコ」は関西中心に広がりました。



大阪三越（1921年頃）

■ 子どもの二大天職「食べる」と「遊ぶ」を満たした「グリコ」



おもちゃ小箱つき
（1929年）

「グリコ」の販売にあたり、子どもの生活を観察していた利一は「子どもにとって食べることと遊ぶことは二大天職である」という考えに至りました。そして体の健康としてキャラメルを、心の健康として子どもの知識と情操を育むおもちゃを提供することを決めました。1922（大正11）年に本格販売がはじまった「グリコ」には、当時たばこに封入されていた美人画をヒントに絵カードを封入。その後、売り上げを伸ばすと、利一は幼稚園の先生の意見をもとに、1927（昭和2）年から本格的なおもちゃの提供を開始。このおもちゃが「グリコ」の特色として印象づけられたのは、1929（昭和4）年のおもちゃ小箱の登場でした。

■ 創製以来の「ハート型」にかける想い

「グリコ」に込めた創意工夫の精神から生まれた「赤いパッケージ」「ゴールインマーク」「一粒300メートル」などのシンボルは、現在も「グリコ」の象徴であり続けています。真心を表す「グリコ」のハート型も、子どもが口に入れても角が当たらず、舌触りがよいと利一が考え出しました。しかし菓子製造の専門家からは、「柔らかいキャラメルをハート型に仕上げるのは不可能」と断言されました。それでも利一は諦めず、工夫を重ね、1921（大正10）年に「グリコ」をハート型に成形するローラーを自らの手で完成し、ハート型の「グリコ」の生産に成功しました。そして現在もハート型は「グリコ」のシンボルのひとつとして親しまれています。



創業当時のハート形ローラー



ハート型のグリコ

ゴールインマークとパッケージの変遷

ゴールインマークの変遷

①1922年～



②1928年～



③1945年～



④1953年～



⑤1966年～



⑥1971年～



⑦1992年～現在



グリコのパッケージの変遷

①1922年



②1929年



③1937年



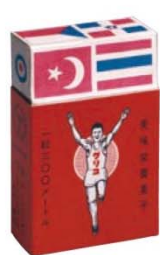
④1949年



⑤1950年



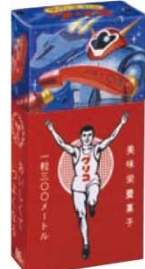
⑥1959年



⑦1967年



⑧1982年



⑨1998年



⑩2005年



⑪2010年



⑫2017年



グリコのおもちゃ年表

<p>大正 1912-26</p>	<p>1922(大正11) グリコ本格発売 絵カードを挿入</p>			<p>1964(昭和39) 鉄人28号グリコ発売</p>
<p>昭和 (戦前) 1926-45</p>	<p>1929(昭和4) おもちゃ小箱登場</p> <p>1933(昭和8) ビスコ発売</p> <p>1935(昭和10) 大阪ミナミに グリコネオン誕生</p> <p>1941(昭和16) 紙や粘土のおもちゃが主流に</p> <p>1942(昭和17) 一般向けのグリコの製造中断</p>		<p>昭和 (戦後) 1945-89</p> <p>1974(昭和49) グリコのおもちゃが大きくカラフルに</p> <p>1982(昭和57) 独自のキャラクターが登場</p> <p>1987(昭和62) ハート型グリコが復活、 おもちゃにみんなの おもちゃが登場</p> <p>1988(昭和63) 100円グリコ発売</p>	
<p>昭和 (戦後) 1945-89</p>	<p>1947(昭和22) グリコ復活、 おもちゃは実用小物</p> <p>1949(昭和24) グリコのおもちゃが 本格的に復活</p> <p>1953(昭和28) グリコがハート型から角型に グリコのおもちゃは憧れの世界を ミニチュア化したものが主流に</p> <p>1955(昭和30) アーモンドグリコ発売</p> <p>1957(昭和32) プラスチック製のグリコのおもちゃが登場</p> <p>1958(昭和33) アーモンドチョコレート発売</p>		<p>平成 1989-</p> <p>1998(平成10) 木のおもちゃ登場</p> <p>2001(平成13) タイムスリップグリコ発売</p> <p>2005(平成17) ぐりこえほん登場</p> <p>2009(平成21) ペーパークラフトグリコ登場</p> <p>2010(平成22) アソビグリコ登場</p> <p>2017(平成29) アプリで遊べて学べる アソビグリコ登場</p>	